

巻 頭 言

2005年6月に第1回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」が宇都宮市で開催されたのを皮切りに、様々な都市でこれまでに11回の開催を重ねてきました。この度、その歴史ある本大会の第12回を、ここ広島市で開催するに当たり、まずは全国からご参加される皆様に、開催地を代表して歓迎と感謝の意を表します。

被爆80年を迎えた広島では戦後復興により建設された建物がちょうど更新・再開発の時期を迎えており、2024年2月にはまちなかサッカースタジアム「エディオンピースウィング広島」が開業し、2025年8月には路面電車が広島駅ビル2階へ乗り入れる駅前大橋ルートが開業するなど、中心市街地では街や交通体系が大きく変化しています。広島は路面電車をはじめJR新幹線・在来線、アストラムライン、様々なバスやタクシー、瀬戸内海の島々を結ぶ船、パーソナルモビリティなど、多様な交通が交差するまちです。それらを機能的かつ効果的に組み合わせることで、誰もが移動しやすいまちとし、まちの魅力や活力の維持・向上につなげる必要があります。

当地広島では産学官民一体となったまちづくりを推進しており、2021年には官民連携のまちづくり組織「広島都心会議」を設立し、ひろしま都心活性化プランの実現に向けた取り組みを行っています。公共交通の面では2025年1月に共創を軸とした広島ならではのバス事業への再構築を目指す組織として「一般社団法人バス協調・共創プラットフォームひろしま」を設立し、利用者目線で質の高いバスサービスと事業者の経営安定化の実現にも取り組んでいます。

このような背景のもと、市民活動の側から誰もが移動しやすいまちの実現を後押しする動きが必要と考え、「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」を広島で開催することとしました。人と環境にやさしい交通まちづくりを実現するために、市民、事業者、専門家、行政関係者などの幅広い分野の方々が全国から集まり、意見・情報交換、交流を図るこの大会を今回広島で開催することで、広島の交通まちづくりに更なる市民活動がもたらされることを期待します。

最後に、本大会を開催するにあたり多大なるご協力、ご支援を賜りました関係各位に実行委員会を代表し、厚く御礼申し上げます。

実行委員長 藤原章正（広島大学教授）